

蓼科高校・長野大学連携講座

蓼科学「地元から学ぶ信州学」①

保科百助アーカイブを作る

ゴムサイ先生を探る①

2017年10月3日

前川道博

長野大学・企業情報学部

自己紹介：前川道博(まえかわ・みちひろ)



出身地： 茨城県かすみがうら市 湖「霞ヶ浦」

専門： メディア環境学

学生と： 地域の魅力発信、地域のデジタルアーカイブ

市民と： 信州デジタルコモンズプロジェクト

地元とは？

- ・ **地域学とは？ 地元とは？**
 - － **地元学ぶ**
 - ・ **なぜそうになっているのか？**
 - ・ **何が特性なのか**
 - － **地元のよさを引き出し地域づくりに活かす**
- ・ **青い鳥シンдрーム**
- ・ **「ユニーク」なものに気づこう**

これは何でしょうか？



立科町



ここはどこでしょうか？



シューティングしているものは？



ここはどこでしょうか？



立科町の農業用水



この水路は何だろう？



ここはどこでしょうか？



この人は誰でしょうか？



ゴムサイ先生は何をした人？



ゴムサイ先生ってどんな人？



科学「地元から学ぶ信州学」全13回(1)

- ①10/03(火) ゴムサイ先生を探る①
- ②10/10(火) ゴムサイ先生を探る②
- ③10/17(火) ゴムサイ先生を探る③
- ④10/24(火) ゴムサイ先生を探る④話を聴く
- ⑤10/27(金) 話のアーカイブをつくる
- ⑥10/31(火) 資料調査と記録①
- ⑦11/10(金) 資料調査と記録②

科学「地元から学ぶ信州学」全13回(2)

⑧11/17(金) 資料調査と記録③

⑨11/21(火) ふり返し・まとめ

⑩11/24(金) 発表資料作成

⑪12/05(火) 発表準備

⑫12/08(金) 発表資料作成

⑬12/12(火) 発表会・保科百助アーカイブ披露

「地元」を客観的に捉える

- ・「地元」の見方
 - － 相関を見る 他地域との比較、歴史的時相
 - － 時間軸で見る 歴史、産業などの変遷
- ・地域の特性を見る
 - － そうさせているものは何か
 - － なぜそうなったか

プレイバック「蓼科学」2015 立科町探検隊

探検隊で持ち帰ったもの

様子を記録



デジカメで

写真で記録

お話を記録



ビデオカメラで

ビデオで記録

プレイバック「蓼科学」2015

立科町探検隊

班	探検隊テーマ
A班	議員の仕事について
B班	りんごジュース
C班	芦田城と芦田信蕃
D班	五無斎保科百助先生
E班	味噌づくりについて
F班	りんご(りんご農家の仕事)
G班	立科町の林檎の秘訣
H班	津金寺
I班	立科町の特産物について
J班	立科町のため池について

プレイバック「蓼科学」2016 引き続き「立科町探検隊」

<http://mmdb.net/tate2016/>

発表のストーリー

(4件)

▼01 ①種類—ふじり
んご・シナノスイー
ツ・シナノゴールド・
つがる・秋映など

▼02 葉摘み—日が当
たるようにして全体を
赤くする

▼03 気候とか—昼と
夜の温暖差、災害が少
ない

▼04 1年でやる作業
—授粉の手伝い→花摘
み→病害防除など



プレイバック「蓼科学」2016

立科町探検隊

班	探検隊テーマ
A班	女神湖のかっぱの話
B班	りんご
C班	津金寺
D班	たてしなツプル
E班	権現の湯
F班	ソフトクリーム
G班	農ん喜村の野菜について
H班	農ん喜村とは何か
I班	無量寺

先輩たちが残した「立科町探検隊」の意義 地元立科町の人々へ

- ① 地元・立科町の人々の記録をする人がいない
→ 蓼科高校「蓼科学」だからできた
- ② 立科町のよさや魅力を住民が発見できる
- ③ 未来に今の立科町を伝えることができる
(タイムカプセル)

「立科町探検隊」に対する地元の方の感想

清水孝さん（蓼科農ん喜村理事）
"これ絶対必要だと思うんですね"



先輩たちが残した「立科町探検隊」の意義 全国・長野県の学校や高校生に

- ① 「立科町探検隊」は「主体的に学ぶ地域学習」モデル
- ② 毎年の成果がまとめられている地域学習は少ない
- ③ 卒業した後で自分が残したものに会うことができる



今年は信州デジタルコモンズ 「保科百助アーカイブ」をつくる

- ・なぜゴムサイ先生か
- ・皆さんにとってこれはつまらない授業なのか
- ・本当に面白いものとは何なのか
- ・アーカイブをつくる＝タイムカプセルを開く
- ・アーカイブで蓼科高校が有名になる
- ・皆で面白がってUDCコンテストに応募しよう！

ゴムサイ先生こと保科百助 (1868～1911)

- ・ 立科町山部出身
- ・ 鉱物標本採集
教育者
- ・ 蓼科実業補習学校初代校長
- ・ 私塾「保科塾」
- ・ 筆墨の行商
- ・ 信濃図書館創設に貢献
- ・ 実物学習
- ・ 部落差別撤廃の実践
- ・ 『信濃公論』
- ・ 狂歌
- ・ 奇人

信濃における実物理科教育の祖
保科五無斎百助先生



学校長としての百助先生

明治元年（一八六八）立科町山部に生まれる。明治十四年（八九）より学校教員となり赴任三校目で校長となり。明治三十四（一九〇一）年退職する。間々六校を転任し赴任地の地域活性化に貢献する。退職後は、貧しくも向学心のある子どもたちのために授業料を安く設定した信濃初の私立中学校「保科塾」を長野市に設立し、多くの有能な人材を輩出した。明治四十四年に四三歳の若さで他界し、立科町津金寺と長野市加茂神社にその功績を讃える記念碑が残る。教員退職後も、自ら県下各地の山野を歩きまわり鉱物を

本名 保科百助
雅号 五無斎



鉱物学者としての百助先生

中心に考古学・染色・織物などの資料採集をし、実物学習のため理科教材標本作製、学校に頒布する。皇室、帝国大学（現東京大学）、帝室博物館（現国立博物館）にも標本を寄贈し評価される。型式風格を重んじる当時の理科教育から、いち早く現在のようないくつかの実物実地教育に移行した先駆者である。向筆墨行商をしながら図書館設立運動に尽力し信濃教育会刊風図書館を開館させた。